正院布告

自壹号
至九十七号

CZ
4
032

東京圖書館
新門 一二函
一〇部 三架
二類 四六三〇號

禁電

CZ
4
032

第壹號

改定律例第二百六十七條私娼衒賣條例相廢シ賣淫取締懲罰ノ儀ハ
警視廳幷各地方官ヘ被任候條此旨布告候事

明治九年一月十二日

太政大臣三條實美

第貳號

開拓使管下クリル諸島自今千島國ニ併セ得撫（ウルツプ）新知（シムシル）占守（シムシユ）ノ三郡ヲ被置候條此旨布告候事

明治九年一月十四日

太政大臣三條實美

第三號

地租金歩通ヲ以收納ノ方法ヲ廢シ自今別紙ノ通改定候條此旨布告候事

但明治八年分ノ儀ハ全年ノ租額及同年市街地租ノ殘半數トモ布告到達ノ日迄ニ收入濟ノ殘高ヲ本年三月三十一日迄ニ割合完納可致事

明治九年一月二十四日

太政大臣三條實美

地租金管廳ヘ徴收期限

第一期
該年七月一日ヨリ收入シテ
同年九月三十日限完納スヘシ
但シ市街ノ地租全額ノ半數及ヒ夏納金ノ類ハ各地ノ舊慣ニ仍リ收納シ其他全年租額ノ內幾分カ納ムヘキ金額ヲ管廳ニ於テ適宜ニ定メ此期限內ニ管廳ヘ徴收スルコトシ納付ノ日限及ヒ金員等ハ該廳ニ於テ分賦ノ上管下ヘ觸示スヘシ

第二期
該年十月一日ヨリ收入シテ
翌年三月三十一日限完納スヘシ
但シ市街ノ地租殘半額收納ハ舊慣ニ仍ルヘシ其他初納九月三

十日迄ニ上納セシ殘額ノ總數ヲ此期限内ニ管廳ヘ徵收スルヿ
トシ該廳ヨリ管下ヘ分賦觸示シ方等ハ上ニ同シ

第四號

租稅上納方ノ儀ハ自今事故ナクシテ管廳ノ觸示シタル收納日限ヲ愆リ上納ヲ怠ル者ハ怠納金トシテ其怠ル處ノ稅米金高ノ二十分ノ一ヲ右觸示シタル收納日限以降實際該廳ヘ收入濟ノ日迄日割ヲ以追徵申付若シ皆納期限後滿一ケ月ヲ過ルト雖モ尚收納延滯スルニ於テハ斷然本人身代限ノ所分ニ可及候條此旨布告候事

但租稅延納處分ノ儀ニ付明治五年第貳百八十五號布告ハ廢シ候事

明治九年一月二十四日

太政大臣三條實美

第五號

明治五年八月第貳百三拾五號布告但書左ノ通改正候條此旨布告候事

明治九年一月二十七日

太政大臣三條實美

華族ヨリ云々

但同苗同名等無餘義差支有之者ハ管轄廳ヘ改名可願出事

第六號

明治八年九月第百三拾五號布告出版條例附則中從前ノ圖書ハ此條例發行ノ日ヨリ四ケ月ヲ限リ可願出旨掲載候處尚本年四月三十日迄延期候條此旨布告候事

明治九年一月二十八日

太政大臣三條實美

第七號

第五國立銀行ノ儀ハ是迄本店ヲ大坂ニ設ケ支店ヲ東京ニ置キ其發行銀行紙幣ヲ引換致シ來リ候處今般右本支兩店其地ヲ易ヘ東京第壹大區拾四小區蠣殼町壹丁目ヲ本店トシ大坂第三大區拾小區立賣堀北通五丁目ヲ支店トシ從來ノ通營業候旨屆出候條此旨布告候事

明治九年一月二十九日

太政大臣三條實美

第六號八號

凡ソ上告期限内ニ撿事及罪犯ヨリ上告セスシテ司法卿其裁判ヲ不當ナリトスル事アル時ハ期限ニ拘ハラス大審院撿事ヲシテ上告セシムル事ヲ得ヘシ此旨布告候事

明治九年一月三十一日

太政大臣三條實美

第九號

明治八年十一月第百六拾貳號布告徵兵令第三章第四條左ノ通改正候條此旨布告候事

明治九年二月四日

太政大臣三條實美

徵兵令第三章

第四條　陸海軍ノ生徒并ニ主船寮定雇職工ノ者

第拾號

府縣東京府ヲ除ク官中左ノ官ヲ被置候條此旨布告候事

但人員ハ各地方ノ適宜ニ任スヘキ事

明治九年二月八日

太政大臣三條實美

七等警部　官等十五等

第拾壹號

明治七年一月第五號ヲ以海上衝突豫防規則布告候處于今熈燈不致往々衝突ノ患害ヲ生シ候趣ニ付海上衝突豫防副則左ノ通相定候條此旨布告候事

明治九年二月九日

太政大臣三條實美

海上衝突豫防副則

第一條

一來明治十年一月一日ヨリ西洋形回漕船ハ勿論日本形ト雖モ積石百石以上ニシテ全部若クハ一部分甲板ヲ具シ航洋スヘキ回漕船ハ明

治七年一月第五號海上衝突豫防規則ヲ屹度遵守シ必ス點燈スヘシ

第二條

一日本形船ハ別紙繪圖面ノ通積荷外國ノタメ兩舷ニ設ケタル左右柱

一舷燈左右ノ舷ニ揭ル紅綠ノ燈籠ヲ云ヲ揭クヘシ

第三條

一揭燈ノ裝置點燈ノ時限其他詳細ノ儀ハ海上衝突豫防規則ニ就テ領會スヘシ

第四條

一來明治十年一月一日以後ニ至リ止ムナキ事故アルニアラスシテ點燈セサルモノハ金五圓ノ罰金ヲ科シ燈籠ヲ所持セサルモノハ金拾圓ノ罰金ヲ科スヘシ

第五條

一右同日以後ニ至リ點燈セスシテ衝突ノ難ニ罹ル時ハ其船主船長及ヒ其船乘組ノ者ハ何樣ノ損害ヲ被ルモ他ニ對シテ之カ辨償ヲ要請シ得ヘカラス

第六條

一舷燈ハ驛遞寮ノ免許ヲ得タル製造人ノ製造シタルモノニ限ルヘシ若シ之ヲ犯スモノハ金七圓五拾錢ノ罰金ヲ科スヘシ

但堅牢ニシテ且其規ニ適スル舶來品ハ此限ニアラス

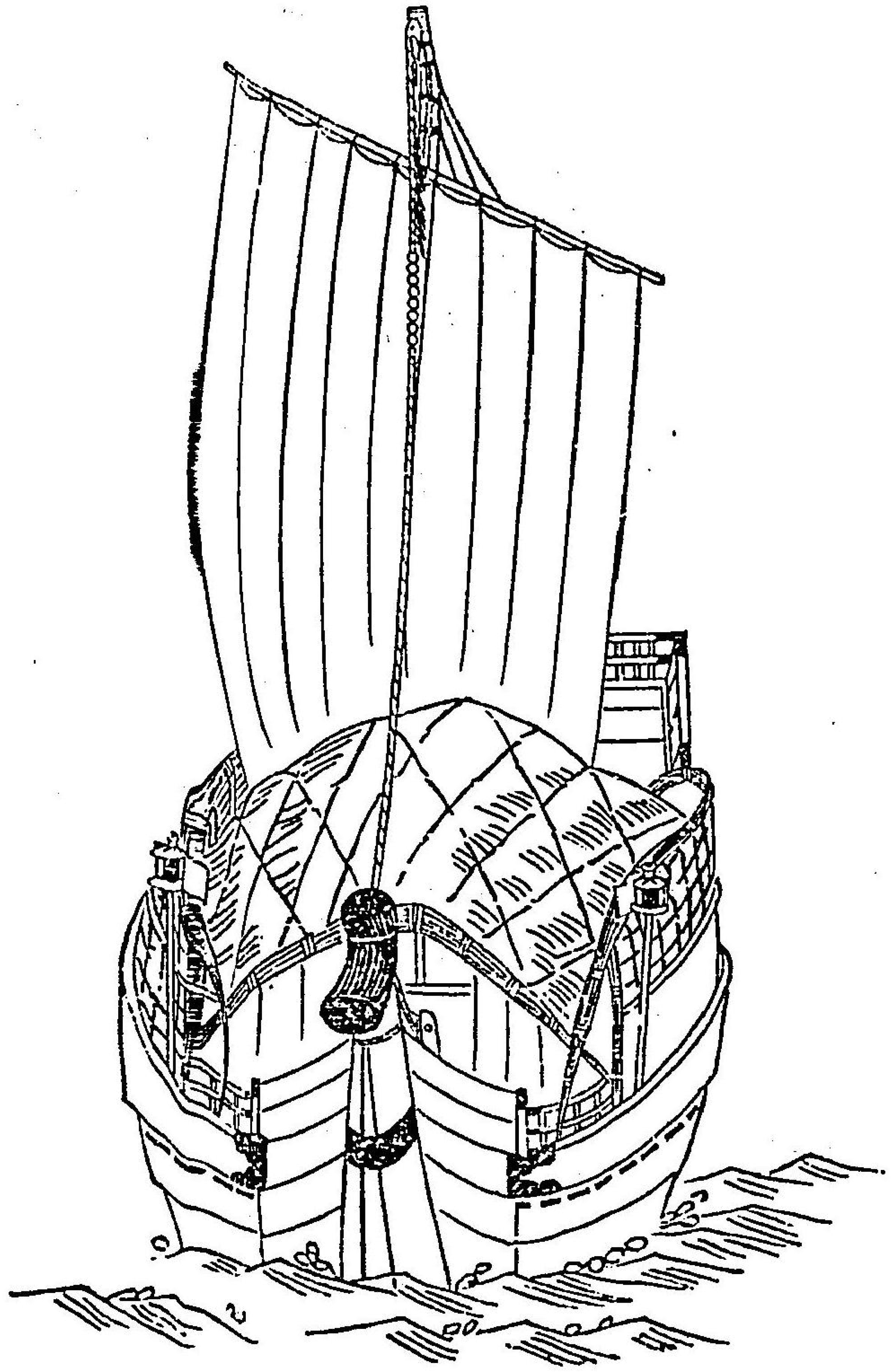
第七條

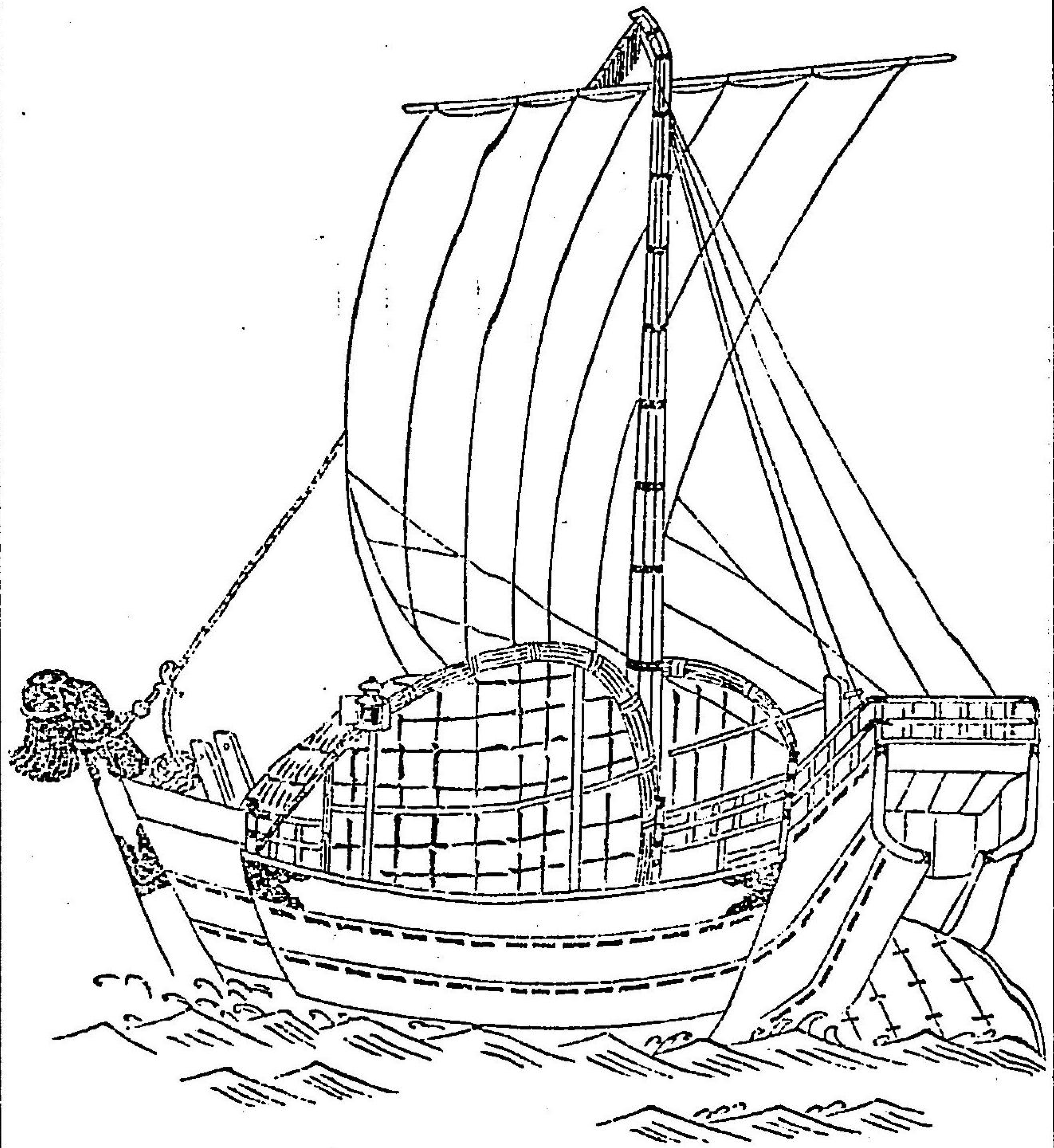
一開拓使及沿海府縣ニ於テハ其筋吏員ヲシテ其管下港灣出入及ヒ繫泊船ノ此規則ヲ遵守スルヤ否ヲ時々監査セシムヘシ

第八條

一此規則ヲ違犯セシヲ訴出ルモノヘハ本犯罰金ノ半額ヲ賞與スヘシ

本文第二條中ノ外國ハ外圍ノ誤マリナリ





第拾貳號

明治八年九月第百三拾五號布告出版條例中ヘ第貳拾九條第三拾條同書式中ヘ版權賣買又ハ改題等ノ節免許狀裏書々式左ノ通追加シ同年十一月第百六拾壹號布告出版屆版權願改正書式中（或ハ何年何月ヨリ漸次出版）ヲ（內何册ハ何年何月出版）ト改正候條此旨布告候事

明治九年二月九日　太政大臣三條實美

第貳拾九條

一版權免許狀附與ノ後版權賣買或ハ改題等屆出ノ上雛形ノ通藏版

人免許狀ハ地方廳印ヲ請フヘシ

第三拾條

一裏書餘白ナキニ至テハ更ニ免許狀書換願出ヘシ

但願出ル者ハ手數料トシテ製本三部ノ定價ヲ納ムヘシ

版權賣買若クハ改題等ノ節免許狀ヘ裏書々式

免狀 裏面

府縣廳ノ印

表書版權免狀賣讓渡候也

何年月日　何ノ誰印

族籍 何ノ誰殿

免狀 裏面

府縣廳ノ印

何年月日改題

書名

第拾三號

東京府下第一大區三小區芝濵崎町ニ離宮ヲ被置自今芝離宮ト被稱候條此旨布告候事

明治九年二月十日

太政大臣三條實美

第拾四號

東京ヨリ千葉縣廳ニ至ル本街道ノ儀從前千住及ヒ松戸驛ヲ經テ通行ノ處自今東京本所竪川通市川村ヲ經テ該縣廳ニ至ルヲ本街道ト相定候條此旨布告候事

明治九年二月十二日

太政大臣三條實美

第拾五號

濵田縣管下石見國郡村左ノ通改正候條此旨布告候事

明治九年二月十三日

太政大臣三條實美

石見國美濃郡

鹿谷村

同國鹿足郡

大木村

二俣村

小瀨村

右四ヶ村合セ富田村ト改稱鹿足郡ニ編入

同　美濃郡

瀧谷村

同　鹿足郡

須川谷村

右二ヶ村合セ瀧谷村ト改稱鹿足郡ヘ編入

第拾六號

各開港場ニ於テ內外國人運輸ノ貨物陸揚船積ノ際運賃拂方相滯候節貨物引留方手順明治八年十二月第貳百壹號ヲ以布告候處詮議ノ次第有之取消候條此旨布告候事

明治九年二月十四日

太政大臣三條實美

第拾七號

度量衡三器別紙種類表ノ通改定候條左ノ規則ノ通可相心得此旨布告候事

明治九年二月十九日　太政大臣三條實美

度量衡改定規則

第一條

三器改定ニ付各地方ニ三器製作所并賣捌所ヲ設ケ製作所ニ於テ製作セル新器來ル三月十五日ヨリ賣捌所ニ於テ發賣爲致從前ノ桝坐秤坐ハ同日ヨリ廢止候事

第二條

各地方ニ舊器改所ヲ設ケ候條從前所持ノ三器來ル三月十五日ヨリ十二月廿五日マテニ右改所ヘ差出シ撿査ヲ請クヘシ右期日ヲ過キ撿印ナキ器ヲ商業上ニ用フルヿヲ禁ス時宜ニヨリ掛リ官吏商家ニ入リ用器ヲ視察スヘキ事

但改所ニ於テ撿査ノ上新器ニ適合セル分ハ撿印シ廢スヘキ分ハ廢ノ字ヲ印シ總テ所持人ニ下ケ戻スヘシ

第三條

製作所賣捌所官許ノ外三器製作賣捌一切不相成事

但尺ハ尺杖等一時使用ノ爲メ目盛致シ桝ハ芋烏芋等ヲ量ル爲メ箱ヲ製シ又ハ賣買スルハ苦シカラス

第四條

尺度秤量ノ目ヲ盛直シ桝ノ緣鉄弦鉄ヲ打替ヘ斗概ヲ修覆スル等ハ必ス製作所ヘ差出スヘク秤量ノ緒紐ヲ附替フルハ製作所又ハ賣捌所ニ差出スヘシ其他ノ人自儘ニ致シ候儀不相成事

第五條

舊新器共撿印アルヲ賣拂度者ハ必ス賣捌所ニ可申出事

但秤ノ錘皿又ハ桝ノ緣鉄弦鉄等ヲ取離シ古鉄トシテ賣買スルハ苦シカラス

第六條

第四條以下ノ禁令ヲ犯ス者ハ其品取上ケ律ニ照シテ處斷スヘキ事

本年第拾七號布告度量衡三器改定規則第六條中

（第四條以下）ハ（第二條以下）ノ誤

明治九年二月廿二日

史官

第拾八號

明治六年七月第貳百四拾七號布告訴答文例中代言人ノ條來三月三十一日限廢シ候條此旨布告候事

但代言人ノ儀ニ付テハ別ニ司法省ヨリ布達可有之事

明治九年二月二十日　　太政大臣三條實美

第拾九號

白川縣廳ヲ飽田郡熊本ヘ移シ熊本縣ト改稱候條此旨布告候事

明治九年二月廿二日

太政大臣三條實美

第貳拾號

訴訟用罫紙規則明治八年十二月第百九拾六號ヲ以テ布告候處遠隔ノ地方廳右規則施行ノ期日マテニ罫紙受取方行届サル向ハ罫紙受取賣捌所設置候マテノ日ヲ限リ該地ニ於テ爲シタル訴訟ハ罫紙ヲ用ヒサルモ其効ヲ有スヘク候條此旨布告候事

明治九年二月廿三日　太政大臣三條實美

第貳拾壹號

高知縣管下伊豫國宇和郡沖ノ島姫島鵜來島ノ儀土佐國幡多郡ヘ編入候條此旨布告候事

明治九年二月廿五日

太政大臣三條實美

第貳拾貳號

改定律例中懲役人又犯罪條例懲役人逃條例ヲ增補シ第三百二條ヲ删除候條此旨布告候事

明治九年二月廿八日　太政大臣三條實美

懲役人又犯罪條例

凡懲役終身ノ囚人又百日以下ノ罪ヲ犯ス者ハ第五條ニ照シテ棒鎖ヲ科シ一年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ四日以上七日以下ノ棒鎖五年以上ノ罪ヲ犯ス者ハ八日以上十日以下ノ棒鎖ヲ科ス懲役終身ノ罪ヲ犯ス者ハ絞

懲役人逃條例

凡懲役終身ノ囚人逃走スル者ハ棒鎖三日再ヒ逃走スル者ハ絞

凡懲役終身ノ囚人逃走シ外ニ在テ又罪ヲ犯ス者ハ懲役人又犯罪條內懲役終身ノ囚人又罪ヲ犯スノ例ニ照シテ科斷ス

第貳拾三號

明治八年五月第九拾三號布告控訴上告手續第十五條別紙ノ通改正候條此旨布告候事

明治九年二月廿九日

太政大臣三條實美

控訴上告手續

第十五條　上告ヲ爲ントス欲スル者ハ裁判言渡ヨリ二月内ニ上告狀ヲ大審院ニ捧クヘシ而シテ同時被告人ニ通知スルヲ要ス若シ原裁判所ヨリ大審院ニ至ルノ距離八里ヨリ遠キ時ハ二月ノ外八里毎ニ一日ヲ増ス此定期ヲ過レハ上告スルヿヲ許サス

上告狀中ニハ必ス左ノ事實ヲ記載スヘシ

第一　原告人ノ住所身分氏名

第二　代言人アレハ其住所身分氏名

第三　被告人ノ住所身分氏名

第四　証人又ハ引合人アレハ其住所身分氏名

第五　府縣裁判所ニ出訴シ又ハ被告ニテ呼出サレタル年月日

及ヒ裁判言渡ヲ受ケタル年月日

第六　上等裁判所ニ控訴シ又ハ被告ニテ呼出サレタル年月日

及ヒ裁判言渡ヲ受ケタル年月日

上告狀ハ正本一冊及ヒ副本五冊ヲ差出スヘシ

上告狀ニハ必ス左ノ書類ヲ添ヘ差出スヘシ

第一　府縣裁判所ニ於テノ訴狀幷ニ答書ノ寫及ヒ裁判言渡書ノ寫

第二　上等裁判所ニ於テノ訴狀幷ニ答書ノ寫及ヒ裁判言渡書ノ寫

第三　上告狀中ニ憑據ト爲ス書類ノ寫ノ各書類ニ番號ヲ朱書シ編シテ一冊ト爲シ又ハ葉數多ニ付編シテ幾冊ト爲シタル者

右ノ訴狀又ハ答書及ヒ憑據ノ書類ノ寫ヲ所持セサル者ハ原裁判所ニ出願シ裁判所ノ簿冊ヲ訟庭ニ取下ケ見坐ノ目前ニ於テ之ヲ寫シ取ルヿヲ得ヘシ

若シ原裁判所ニ於テ書類寫取ノ出願ヲ許サヽルニ因リ上告人其寫ヲ出シ能ハサル時ハ其旨ヲ上告狀中ニ記載スヘシ

第貳拾四號

露西亞國ト千島樺太兩島交換條約明治八年十一月第百六拾四號ヲ以テ布告候處右附錄別紙ノ通ニ候條此旨布告候事

明治九年二月廿九日

太政大臣三條實美

千島樺太交換條約附録

明治八年五月七日即チ千八百七十五年四月廿五日露國聖彼特堡府ニ於テ調印濟ノ公文第三欵ニ基キ及同日調印ノ條約第五欵ノ旨趣ヲ完全ナラシメ且施行セシカ爲メ雙方讓與濟ノ領地ニ在住セル各政府臣民ノ權利及其身分且兩地方土人ノヿニツキ日本皇帝陛下及全露西亞皇帝陛下ハ爲メニ各全權委員ヲ命シタリ即チ日本皇帝陛下ハ其外務卿寺島宗則ヲ之レニ任シ又全露西亞皇帝陛下ハ侍從兼コンセイエーデターアクチユウエル日本在留辨理公使シヤル、スツルウエヲ以テ此ノ任ニ宛テ雙方委任ノ書ヲ照應シ状實良好ニシテ其至當タルヲ見テ左ノ條欵ヲ合議決定スルモノナリ

第一條

交換濟ノ各地ニ住ム日本及露西亞ノ臣民現ニ其所有セル地ニ在住セント願フモノハ自個ノ職業ヲ十分營ムヲ得且其保護ヲ受クヘシ又現在所有地界限中ニテ漁獵及鳥獸獵ヲ爲スノ權ヲ有シ且其生涯中自己ノ職業上ニ關スル諸稅ヲ免スヘシ

第二條

樺太（サカリヌ）島及クリル島ニ在住セント決定スヘキ各臣民ハ所有ノ權利ヲ有スヘシ又現今所持ノ不動產ヨリ收入スル物件及所有ノ權利ヲ証明セル証書ヲ渡シ置クヘシ

第三條

樺太（サカリヌ）島及クリル島ニ在ル各臣民ハ自個ノ宗旨ヲ尊崇スルコト全ク

自由タルヘク又禮拜堂寺堂及墓所ハ毀害スヘカラス

第四條

樺太（サカリヌ）島及クリル島ニ在ル土人ハ現ニ住スル所ノ地ニ永住シ且其儘現領主ノ臣民タルノ權ナシ故ニ若シ其自個ノ政府ノ臣民タランコトヲ欲スレハ其居住ノ地ヲ去リ其領主ニ屬スル土地ニ赴クヘシ又其儘在來ノ地ニ永住ヲ願ハヽ其籍ヲ改ムヘシ各政府ハ土人去就決心ノ爲メ此條約附錄ヲ右土人ニ達スル日ヨリ三ケ年ノ猶豫ヲ與ヘ置クヘシ此三ケ年中ハ是迄ノ通樺太島及クリル島ニテ得タル特許及義務ヲ變セスシテ漁獵及鳥獸獵其他百般ノ職業ヲ營ムコト妨ナシト雖モ總テ地方ノ規則及法令ヲ遵奉スヘシ前ニ述フル三ケ年ノ期限過キテ猶雙方交換濟ノ地ニ居住センコトヲ欲スル土人ハ總テ其地新領主ノ臣民トナ

ルヘシ

第五條

樺太島及クリル島ノ土人ハ各自個ノ宗旨ヲ尊崇スルヿ全ク自由タル
ヘシ又寺堂及墓所ハ毀害スヘカラス

第六條

此條約附錄ノ右五ヶ條ニ載セタル議定ノ件々ハ明治八年五月七日聖
比特堡ニ於テ調印濟ノ條約ニ加ヘタルモ同シ權力アルモノナリ
右ヲ確定スル爲メ各全權委員此條約附錄ヲ作リ二通ト爲シ以テ各其
印ヲ調スルモノナリ

東京ニ於テ

明治八年八月廿二日

日本外務卿　寺島　宗則　印

露西亞國辨理公使セ、スツルウエ　印

第貳拾五號

露西亞國ト交換相成候樺太島ニテ從來漁業營居候者ハ舊漁場ニ於テ引續營業不苦候條此旨布告候事

但同所ヘ出張ノ節ハ人民船舶共尋常海外渡航ノ通航海公證願受所持可致事

明治九年三月二日

太政大臣三條實美

第貳拾六號

今般宮城縣へ裁判所被置候條此旨布告候事

明治九年三月二日

太政大臣三條實美

第貳拾七號

明治八年六月第百八號布告貨幣條例ノ内貨幣通用制限第六節ニ貿易銀ト本位金貨トノ價格比較當分相定置候處今般左ノ通改定候條此旨布告候事

明治九年三月四日　太政大臣三條實美

貨幣條例貨幣通用制限第六節

海關税其他外國人ヨリ納ムル諸税受取方ニ付貿易銀（但新舊トモ）ト本位金貨トノ價格比較ハ銀貨百枚ニ付本位金貨百圓ノ割合タルヘシ

第貳拾八號

今般鶴ヶ岡縣ヘ裁判所被置候條此旨布告候事

明治九年三月九日

太政大臣三條實美

第貳拾九號

明治八年十一月第百六拾三號布告西洋形日本船各開港場出入規則第五條左ノ通改正候條此旨布告候事

明治九年三月十日　太政大臣三條實美

西洋形日本船各開港場出入規則

第五條

出入港ノ届ヲ等閑ニスル者ハ左ノ通科料申付ヘキ事

蒸氣船　三百噸マテ　金五圓

三百噸以上三百噸毎ニ五圓ヲ加フ

風帆船　三百噸マテ　金三圓
三百噸以上三百噸毎ニ三圓ヲ加フ

第三拾號

外國船ニ乘込旅行セントスル者取締ノタメ左ノ通規則相定候條此旨布告候事

明治九年三月十八日　太政大臣三條實美

外國船乘込規則

第一條

外國船ニ乘込旅行セントスル者ハ出船當日或ハ一日前其屬籍住所姓名及ヒ何國人所持船何號ニ乘込何港迄赴ク旨ヲ具シタル屆書ヲ其出船スル地ノ廳ニ差出シ乘船證書ヲ受クヘシ

第二條

乘船證書ハ壹人壹枚タルヘシ

第三條

乘船證書ヲ受取ルニハ壹枚ニ付手數料トシテ金貳拾五錢ヲ納ムヘシ

第四條

乘船證書ハ毎人親ラ出廳シテ受取ルヘシ代人ヲ以テスルヲ許サス

第五條

乘船證書ハ着港上陸ノ上其地警察官吏ニ返付スヘシ其途中一時上陸（例ヘハ横濱港ヨリ長崎港ニ到ル者其船舶神戸港ニ碇泊シタル時用便ノタメ暫時上陸スルノ類）スル者ハ其地臨撿警察官吏ニ其證書ノ撿閲ヲ受クヘシ

第六條

乘船證書ハ一度ノ出船ニ用フルモノトス故ニ途中ヨリ上陸スル歟又ハ事故アリテ乘込ヲ止メ更ニ他ノ船ニ乘込歟又ハ同船タリトモ他日航海ノ便ニ乘込ム時ハ最初受取タル證書ハ其出船スル地ノ廳ニ納メテ更ニ證書ヲ受取ルヘシ

第七條

乘船證書ヲ所持セスシテ乘船シタル者ハ上陸ノ節違式ニ照シテ處分スヘシ

第八條

開港場アル地方ニ於テハ外國船ニ乘込ントスルノ届書ヲ差出ス者アル時ハ第一條第四條ノ手續ニ相違ナキヤヲ撿閲シ別紙雛形ノ證

書ヲ直ニ本人ニ相渡シ手數料ヲ領收スヘシ

第九條

右地方廳ハ兼テ船場ノ要所ニ於テ警察官吏ノ出張所ヲ設ケ置キ外國船出入港毎ニ若干員ヲ臨撿セシメ內國人ノ乘船又ハ上陸スル者ノ證書ヲ一々撿閱シ若シ證書ヲ所持セサル歟又ハ其證書最前ノ出船ニ請取リタルヲ其儘再用シタル歟ヲ視認メタル時ハ詳カニ其所由ヲ取糺シ證書所持セサル者ハ乘船證書ヲ受取ル手續ヲナサシメ或ハ其乘込ミヲ止ム證書ヲ再用スル者ハ違式ニ照シテ處分スヘシ

第十條

警察官吏乘船證書ヲ臨撿シ著港上陸者ノ分ハ之ヲ領收シ一時途中上陸者ノ分ハ之ヲ本人ニ還付スヘシ

證書雛形 料紙西ノ內紙八ッ切

表面

割印

何府(縣)何大小區何町(村)住(寄留)
何府(縣)華(士)族(平民)
姓名
年齡

右何國何號船ニ乘込何港ニ到ルヲ認了ス

年月日

廳名 印

裏面

一此証書ヲ授與スルカタメ規則ノ通手數料ヲ領收セリ

一此証書ハ何港到着ノ節其地臨撿警察官吏ヘ返付スヘシ

第三拾壹號

内國郵船ニ乘組旅行致シ候者ハ其船長又ハ其所持主ニ於テ航海ノ度毎ニ各人ノ姓名住所幷ニ何地迄赴ク旨ヲ詳細ニ登記シ置キ何時ニテモ其筋ヨリ取調候節差支無之様可致此旨布告候事

明治九年三月十八日

太政大臣三條實美

第三拾壹號

内國郵船ニ乗組旅行致シ候者ハ其船長又ハ其所持主ニ於テ航海ノ度毎ニ各人ノ姓名住所并ニ何地迄趣ク哉ヲ詳細ニ登記シ置キ何時ニテモ其筋ヨリ取調候節差支無之様可致此旨布告候事

明治九年三月十八日

太政大臣三條實美

第三拾貳號

郵便五錢切手左ノ見本ノ通發行候條此旨布告候事

明治九年三月十九日

太政大臣三條實美

第三拾三號

明治九年郵便規則第十八條ヘ左ノ但書ヲ増加候條此旨布告候事

明治九年三月十九日　太政大臣三條實美

郵便規則第十八條

一前ニ記シタル云々

但一管内往復ハ此限ニアラス

第三拾四號

今般朝鮮國ト別册ノ通リ條約取結相成候條此旨布告候事

明治九年三月廿二日

太政大臣三條實美

修好條規

大日本國

大朝鮮國ト素ヨリ友誼ニ敦ク年所ヲ歴有セリ今兩國ノ情意未タ洽ネカラサルヲ視ルニ因テ重テ舊好ヲ修メ親睦ヲ固フセント欲ス是ヲ以テ日本國政府ハ特命全權辨理大臣陸軍中將兼參議開拓長官黑田清隆特命副全權辨理大臣議官井上馨ヲ簡ミ朝鮮國江華府ニ詣リ朝鮮國政府ハ判中樞府事申櫶都摠府副摠管尹滋承ヲ簡ミ各奉スル所ノ諭旨ニ遵ヒ議立セル條款ヲ左ニ開列ス

第一款

朝鮮國ハ自主ノ邦ニシテ日本國ト平等ノ權ヲ保有セリ嗣後兩國和親ノ實ヲ表セント欲スルニハ彼此互ニ同等ノ禮義ヲ以テ相接待シ

毫モ侵越猜嫌スル事アルヘカラス先ツ從前交情阻塞ノ患ヲ爲セシ諸例規ヲ悉ク革除シ務メテ寛裕弘通ノ法ヲ開擴シ以テ雙方トモ安寧ヲ永遠ニ期スヘシ

第二款

日本國政府ハ今ヨリ十五個月ノ後時ニ隨ヒ使臣ヲ派出シ朝鮮國京城ニ到リ禮曹判書ニ親接シ交際ノ事務ヲ商議スルヲ得ヘシ該使臣或ハ留滯シ或ハ直ニ歸國スルモ共ニ其時宜ニ任スヘシ朝鮮國政府ハ何時ニテモ使臣ヲ派出シ日本國東京ニ至リ外務卿ニ親接シ交際事務ヲ商議スルヲ得ヘシ該使臣或ハ留滯シ或ハ直ニ歸國スルモ亦其時宜ニ任スヘシ

第三款

嗣後兩國相往復スル公用文ハ日本ハ其國文ヲ用ヒ今ヨリ十年間ハ添フルニ譯漢文ヲ以テシ朝鮮ハ眞文ヲ用フヘシ

第四款

朝鮮國釜山ノ草梁項ニハ日本公館アリテ年來兩國人民通商ノ地タリ今ヨリ從前ノ慣例及歳遣船等ノ事ヲ改革シ今般新立セル條款ヲ憑準トナシ貿易事務ヲ措辨スヘシ且又朝鮮國政府ハ第五款ニ載スル所ノ二口ヲ開キ日本人民ノ往來通商スルヲ准聽スヘシ右ノ場所ニ就キ地面ヲ賃借シ家屋ヲ造營シ又ハ所在朝鮮人民ノ屋宅ヲ賃借スルモ各其隨意ニ任スヘシ

第五款

京圻忠淸全羅慶尙咸鏡五道ノ沿海ニテ通商ニ便利ナル港口二個所

ヲ見立タル後地名ヲ指定スヘシ開港ノ期ハ日本暦明治九年二月ヨリ朝鮮暦丙子年正月ヨリ共ニ數ヘテ二十個月ニ當ルヲ期トスヘシ

第六款

嗣後日本國船隻朝鮮國沿海ニ在リテ或ハ大風ニ遭ヒ又ハ薪粮ニ窮竭シ指定シタル港口ニ達スル能ハサル時ハ何レノ港灣ニテモ船隻ヲ寄泊シ風波ノ險ヲ避ケ要用品ヲ買入レ船具ヲ修繕シ柴炭類ヲ買求ムルヲ得ヘシ勿論其供給費用ハ總テ船主ヨリ賠償スヘシト雖モ是等ノ事ニ就テハ地方官人民トモニ其困難ヲ體察シ眞實ニ憐恤ヲ加ヘ救援至ラサル無ク補給敢テ吝惜スル無ルヘシ倘又兩國ノ船隻大洋中ニテ破壞シ乘組人員何レノ地方ニテモ漂着スル時ハ其地ノ人民ヨリ即刻救助ノ手續ヲ施シ各人ノ性命ヲ保全セシメ地方官ニ

届出該官ヨリ各本國ヘ護送スルカ又ハ其近傍ニ在留セル本國ノ官員ヘ引渡スヘシ

第七款

朝鮮國ノ沿海島嶼岩礁從前審撿ヲ經サレハ極メテ危險トナスニ因リ日本國ノ航海者自由ニ海岸ヲ測量スルヲ准シ其位置淺深ヲ審ニシ圖誌ヲ編製シ兩國船客ヲシテ危險ヲ避ケ安穩ニ航通スルヲ得セシムヘシ

第八款

嗣後日本國政府ヨリ朝鮮國指定各口ヘ時宜ニ隨ヒ日本商民ヲ管理スルノ官ヲ設ケ置クヘシ若シ兩國ニ交渉スル事件アル時ハ該官ヨリ其所ノ地方長官ニ會商シテ辨理セン

第九款

兩國既ニ通好ヲ經タリ彼此ノ人民各自己ノ意見ニ任セ貿易セシムヘシ兩國官吏毫モ之レニ關係スルコナシ又貿易ノ限制ヲ立テ或ハ禁沮スルヲ得ス倘シ兩國ノ商民欺罔衒賣又ハ貸借償ハサルコアル時ハ兩國ノ官吏嚴重ニ該逋商民ヲ取糺シ債欠ヲ追辨セシムヘシ但シ兩國ノ政府ハ之ヲ代償スルノ理ナシ

第十款

日本國人民朝鮮國指定ノ各口ニ在留中若シ罪科ヲ犯シ朝鮮國人民ニ交渉スル事件ハ總テ日本國官員ノ審斷ニ歸スヘシ若シ朝鮮國人民罪科ヲ犯シ日本國人民ニ交渉スル事件ハ均シク朝鮮國官員ノ査辨ニ歸スヘシ尤雙方トモ各其國律ニ據リ裁判シ毫モ回護袒庇スルコナク務メテ公平允當ノ裁判ヲ示スヘシ

第十一款

兩國既ニ通好ヲ經タレハ別ニ通商章程ヲ設立シ兩國商民ノ便利ヲ與フヘシ且現今議立セル各款中更ニ細目ヲ補添シテ以テ遵照ニ便ニスヘキ條件共自今六個月ヲ過スシテ兩國別ニ委員ヲ命シ朝鮮國京城又ハ江華府ニ會シテ商議定立セン

第十二款

右議定セル十一款ノ條約此日ヨリ兩國信守遵行ノ始トス兩國政府復之レヲ變革スルヲ得ス以テ永遠ニ及ホシ兩國ノ和親ヲ固フスヘシ之レカ爲ニ此約書二本ヲ作リ兩國委任ノ大臣各鈐印シ相互ニ交付シ以テ憑信ヲ昭ニスルモノナリ

大日本國紀元二千五百三十六年明治九年二月二十六日

大日本國特命全權辨理大臣陸軍中將兼參議開拓長官黑田清隆 印

大日本國特命副全權辨理大臣議官井上馨 印

大朝鮮國開國四百八十五年丙子二月初二日

大朝鮮國大官判中樞府事申櫶 印

大朝鮮國副官都摠府副摠管尹滋承 印

第三拾五號

海軍省中機關士補服制別紙ノ通制定明治八年十一月第百六拾八號布告海軍文官服制ノ末尾ヘ追加候條此旨布告候事

明治九年三月廿二日

太政大臣三條實美

明治九年三月第三拾五號布告制定

海軍機關士補服制

一 帽及前章共機關士副ニ同シ

一 禮服常服共少尉補ニ同シ總テ紺羅紗ヲ

一 領飾海軍文官十等ニ同シ

一 袖章圖ノ如シ

一 釼帶及ヒ釼緒短釼共少尉補ニ同シ

但シ製ハ金ハ圓中ニ櫻花ヲ用ヒ海軍文

ニ同シ

禮服

金釦釦三ツ
紫線二分五厘

常服

紫線二分五厘

海軍機關士補服制

軍機關士補服制

帽及前章共機關士副ニ同シ

禮服常服共少尉補ニ同シ總テ紺羅紗ヲ用ユ

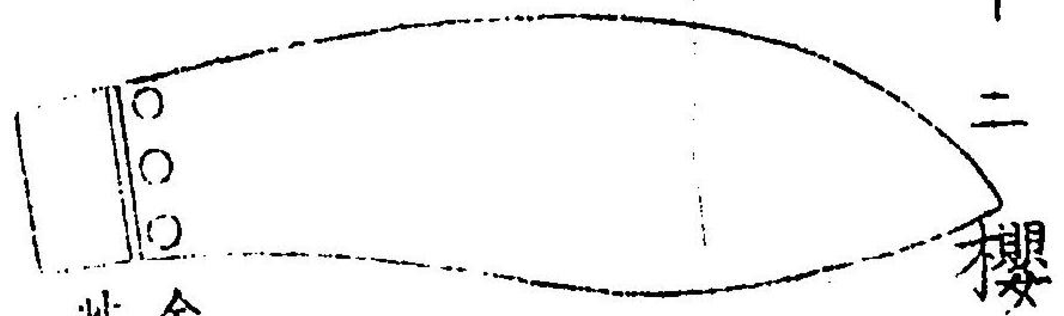
領飾海軍文官十等ニ同シ

袖章圖ノ如シ

劍帶及ヒ劍緒短劍共少尉補ニ同シ

但シ鍬形金八圓中ニ櫻花ヲ用ユ海軍文官十等ニ同シ

禮服



常服

第三拾六號

明治六年一月第三拾貳號布告生絲製造取締規則第十三條左ノ通追加候條此旨布告候事

明治九年三月廿四日　太政大臣三條實美

第十三條

一取上品ハ第七條第十條ニ照シ相當ノ印紙ヲ用ヒ其結目ヘ取上品ノ印ヲ押シテ（其品第十條ニ當ル時ハ其上包ニ印ヲ押スヘシ）入札拂可取計事

但入札拂ハ其地ノ裁判官ニテ處分シ印紙代ハ其地方廳定額常費金ヲ以可仕拂事

取上品印影

曲尺六分

取上品

曲尺四分

第三拾七號

奈良縣管下大和國宇陀郡龍口村ト三重縣管下伊賀國名張郡龍口村トノ間ニアル山地反別百七拾壹町五反貳畝三歩自今大和國宇陀郡龍口村ヘ屬シ右兩國ノ經界ヲ定メ候條此旨布告候事

明治九年三月廿五日

太政大臣三條實美

第三拾九號

銃砲所持ノ者屆漏ノ分ハ明治九年二月二十八日迄ニ其管轄廳ヘ啟印可願出旨明治八年十二月第百八拾九號ヲ以テ布告候處更ニ明治九年四月三十日迄延期候條此旨布告候事

明治九年三月廿八日

太政大臣三條實美

第四拾號

岩手縣管下陸中國岩手郡橋場驛ト秋田縣管下羽後國仙北郡生保內驛トノ間國見峠ノ道路ヲ改修シ新道ヲ仙岩峠ト稱シ候條此旨布告候事

明治九年三月三十日

太政大臣三條實美

第四拾壹號

自今滿貳拾年ヲ以テ丁年ト相定候條此旨布告候事

明治九年四月一日　　太政大臣三條實美

第四拾貳號

改定律例名例律第三拾八條左ノ通改正候條此旨布告候事

明治九年四月一日　　太政大臣三條實美

第三拾八條　凡侍養子孫ト稱スルハ年拾六以上ノ者ヲ謂フ若シ家ニ拾六以上ノ男ナシト雖モ妻若クハ女年拾六以上ノ者アレハ留養スルヿヲ聽サス

第四拾三號

徵兵令第六章第十二條中ニ掲載有之成丁簿ヲ國民軍名簿ト改正候條此旨布告候事

明治九年四月一日

太政大臣三條實美

第四拾四號

明治六年六月第貳百拾五號布告代人規則第三條左ノ通改正候條此旨布告候事

明治九年四月一日　　太政大臣三條實美

第三條　凡ソ代人ハ心術正實ニシテ滿貳拾歳以上ノ者ヲ撰ムヘシ

第四拾五號

愛知縣管下三河國設樂郡大野瀬村ト筑摩縣管下信濃國伊那郡根羽村トヘ係ル國境字檜木長峰大桑辻池ノ平口牛小屋奥牛小屋横峰板澤川ノ間入會秣場舊來不明瞭ノ場所山反別四拾六町七反六畝拾四歩ノ地自今三河國ヘ屬シ候條此旨布告候事

明治九年四月六日

太政大臣三條實美

第四拾六號

亞米利加合衆國ト郵便交換條約別紙ノ通改定追加相成候條此旨布告候事

明治九年四月十二日

太政大臣三條實美

一千八百七十三年八月六日帝國日本ト亞墨利加合衆國トノ間ニ取結タル郵便交換條約ノ箇條及ヒ一千八百七十五年四月二十六日兩國間ニ約スル條約ノ條款ヲ改定スル追加條約

下ニ載名スル兩員ハ各其政府ノ命ヲ奉シ西暦一千八百七十三年八月六日即明治六年八月六日結約スル日本ト合衆國ト郵便交換條約ノ箇條及ヒ一千八百七十五年四月二十六日華盛頓府ニ於テ調印セル兩國間條約ノ箇條ヲ左ノ如ク改定スルヿヲ締約ス

第一條

右交換條約中第三條ノ第二節ヲ改定シ信書一通ノ郵便税其重量十五グラム即チ半オンス或ハ其以下ノモノハ合衆國ニ於テハ五セントト日本ニ於テハ五錢ニ減シ右重量ニ超ユルモノハ十五グラム即チ半オンス若クハ其分

數每ニ五セント或ハ五錢ノ比例ヲ以テ郵便税ヲ加フヘシ
又合衆國ト日本ト兩國間ニ郵便ヲ以テ交換スル新聞紙及諸般ノ刷印モノ其他商品ノ見本雛形ノ郵便税ニ關シ一千八百七十五年四月二十六日華盛頓府ニ於テ兩國間ニ取結ベル條約ヲ改定シ發出國ノ郵便局ニ於テ取立收入スヘキ郵便税各新聞紙ノ重量四オンスニ過キサルモノハ合衆國ニ於テハ二セントト日本ニ於テハ二錢ニ減シ諸般ノ刷印モノ其他商品ノ見本雛形其重量二オンス若クハ二オンスノ分數每ニ二セント或ハ二錢タルヘシ

第二條

日本政府ニ於テ清國上海ニ郵便支局ヲ設立ス可キニ依リ右日本郵便支局ヨリ發出シ横濱交換局ヲ經テ合衆國若クハ合衆國ヲ經過シ外國

ヘ郵送スル各種郵便物ノ税額及交換ノ順序ハ帝國日本ヨリ右國々ヘ遞送スルモノト同一タルヘシ

第三條

横濱兵庫長崎ノ三港ニ在ル日本郵便局ハ合衆國或ハ日本ノ郵便船ヲ以テ在上海日本郵便支局ト郵便物ヲ交換スルヿヲ得ヘシ
又在上海米國郵便支局ニ於テ取立收入スヘキ日本行信書一通ノ郵便税ハ兩國間ニ取結ヘル郵便交換條約第五條ニ約定スル六セントヲ廢シ五セントトス且上海行信書同港米國郵便支局ニ當テ遞送スル時ハ同シク五錢ノ郵便税ヲ日本ニ於テ取立收入ス可シ

第四條

一千八百七十三年八月六日締約ノ郵便交換條約第五條ノケ條ハ茲ニ

改定スル通リ今一千八百七十六年十二月三十一日卽チ兵庫長崎ノ兩港ヲ經テ橫濱ト上海トノ間郵便事務ノ爲メ合衆國ト太平洋郵便滊船會社ノ間ニ存スル約定滿期ノ日迄存在スヘシ而シテ來一千八百七十七年一月一日後若シ合衆國驛遞院ト締約シテ日本橫濱港ト支那上海トノ間ニ定期ノ航海ヲナス郵便船ヲ以テ在橫濱日本郵便局ト在上海合衆國郵便支局トノ間ニ交換スル郵便物アルトキハ右ケ條ヲ之ニ充ツヘシ

此條約ハ西曆一千八百七十六年四月一日卽明治九年四月一日ヨリ實際施行スヘシ

西曆一千八百七十六年二月八日卽明治九年二月八日華盛頓府ニ於テ此條約本書二通ニ記シ以テ確定スル者也

合衆國駐劄
帝國日本特命全權公使
吉田清成

合衆國驛遞總長
マルシヤル ヂエウエル

朕此條約ヲ定證セン爲玆ニ大日本國ノ印章ヲ鈐ス

明治九年四月一日

御名　國璽

余此條約ヲ了承シ爰ニ合衆國ノ印章ヲ鈐シ之ヲ證スル者也

奉勅　外務卿寺島宗則

ユー、エス、クラント

外國事務執政

ハミルトン　フヰシ

華盛頓府千八百七十六年二月八日

第四拾七號

明治九年郵便規則第九拾條外國郵便税別表ノ通改正候條此旨布告候事

明治九年四月十二日

太政大臣三條實美

外國郵便税

一千八百七十三年第八月六日亞米利加合衆國トノ郵便交換條約并ニ改定條約ニ依リ信書新聞紙其他ノ印刷物ヲ日本國ヨリ遞送シ得ヘキ各
リ實施スルモノニシテ爾後報告ヲナス迄引續クモノトス

國名及ヒ地名	書狀 三匁九九毎ニ又ハ其分數毎ニ即チ十五グラム毎ニ又ハ其分數毎ニ（錢）	書留手數料（錢）	新聞 三十匁〇一…過キサル毎ニ即チ四オンス…過キサル毎ニ（錢）
アスピンウォール（ニウグラナダ） オーストラリヤ（ニウサオスウェールスヲ除キ桑港ヲ經テ） ボルミダ コスタリカ キユバ キユラコー フィヂアイランド（桑港ヲ經テ） ヘーチ ジヤメーカ ニカラグワ パナマ（ニウグラナダ） ポルトリコ サンドミンゴ（ドミニカン共和國） 西印度（丁抹ノ）	※十	二十五	四
オーストリヤ アゾールス ハレーリツクアイルス ベルヂユーム カナリーアイランド 丁抹 埃及 ファローアイランド フィインランド 佛蘭西 日耳曼 英吉利及アイルランド 希臘 和蘭 ホンガリー アイスランド 以太利亞 ロキセンボルク マデリヤ マルタ ノールウエー 葡萄牙 ローマニア 魯西亞 サルウエア 西班牙 西班牙ノ所有地（亞弗利加ノ北海岸） 西班牙諸郵便局（モロッコノ西海岸） 瑞典 瑞西 土耳其	十	二十五	四
バハマス	※八		四
ベリイズ（ブリチシホンヂラス） ゴーダローウプ ギユチー（ブリチシ、フレンチ、及ビダッチ） ニウグラナダ（アスピンウォル及ヒパナマヲ除ク） ウェチシラ（英郵船ニテウェチシントトウマスヲ經テ）	※十八	二十五	六
ボリビヤ チリ 白露	※二十二	二十五	六
ブラヂル †	二十	二十五	七
ブリチシコロンビヤ プリンスイドワルドアイランド カナダ	八	二十五	六
イコードル（パナマヲ經テ閉囊ニテ）	二十五		四
イコードル（コローンヲ經テ英郵船ニテ）	※二十二	二十五	六
ガイテマラ	※十五		四
ヂブラルタル	十三	二十五	六
ハワイアンキングドム †	十一		六
メキシコ	※十五		七
ニウハウンドランド	十一	二十五	四
ニウソース ウェールス	十七	二十五	四
ニウゼーランド †	十七	二十五	四
サルヴェードル	※十五		四
サンドウィツチアイランド（ハワイアンキングドムヲ見ヨ）			
上海	五	十	二
亞米利加合衆國	五	十五	二

	即チ十五グラム毎ニ又ハ其分數毎ニ	手數料	即チ四オンス過キサル毎ニ
	錢	錢	錢
アスピンウォール(ニウグラナダ)、オーストラリヤ(ニウサオスウェールスヲ除キ桑港ヲ經テ)、ボルミダ、コスタリカ、キユバ、キユラコー、フィヂアイランド(桑港ヲ經テ)、ヘーチ、ジヤメーカ、ニカラグワ、パナマ(ニウグラナダ)、ポルトリコ、サンドミンゴ(ドミニカン共和國)、西印度(丁抹ノ)	※十	二十五	四
オーストリヤ、アゾールス、バレーリツクアイルス、ベルヂューム、カナリーアイランド、丁抹埃及、ファローアイランド、フィンランド、佛蘭西、日耳曼、英吉利及アイルランド、希臘、和蘭、ホンガリー、アイスランド、以太利亞、ロキセンボルク、マデリヤ、マルタ、ノールウェー、葡萄牙、ローマニア、魯西亞、サルウエア、西班牙、西班牙ノ所有地(亞弗利加ノ北海岸)、西班牙諸郵便局(モロッコノ西海岸)、瑞典、瑞西、土耳其	十	二十五	四
バハマス	※八		四
ペリイズ(ブリチシホンヂラス)、ゴーダロープ、ギユチー(ブリチシ、フレンチ、及ビダッチ)、ニウグラナダ(アスピンウォール及ヒパナマヲ除ク)、ウェチシラ(英郵船ニテシントトウマスヲ經テ)	※十八	二十五	六
ボリビヤ、チリ、白露	※二十二	二十五	六
ブラヂル †	二十	二十五	七
ブリチシコロンビヤ、プリンスエドワルドアイランド、カナダ	八	二十五	六
イコードル(パナマヲ經テ閉囊ニテ)	二十五		四
(コローンヲ經テ英郵船ニテ)	※二十二	二十五	六
ガイテマラ	※十五		四
ギブラルタル	十三	二十五	六
ハワイアンキングドム †	十一		六
メキシコ	※十五		七
ニウハウンドランド	十一	二十五	四
ニウソースウェールス	十七	二十五	四
ニウゼーランド †	十七	二十五	四
サルヴェードル	※十五		四
サンドウィッチアイランド(ハワイアンキングドムヲ見ヨ)			
上海	五	十	二
亞米利加合衆國	五	十五	二
ウェチシラ(亞米利加合衆國ヨリ直航船ニテ)	※十五		七
西印度(前ニ記載セザル)	※十八	二十五	六

※印ハ着船ノ港迄ニ限リ郵便税ヲ前拂シ得ヘキヲ示ス

†印ハ新聞紙其他ノ印刷物ニ限リ届先ノ國ニテ定ムル郵便税ニ依リ受取

外國郵便税表

…千八百七十三年第八月六日亞米利加合衆國トノ郵便交換條約幷ニ一千八百七十五年第四…定條約ニ依リ信書新聞紙其他ノ印刷物ヲ日本國ヨリ遞送シ得ヘキ各國ノ名稱及ヒ其税額…實施スルモノニシテ爾後報告ヲナス迄引續クモノトス

國名及ヒ地名	書状 三匁九九毎ニ又ハ其分數 即チ十五グラム毎ニ又ハ其分數毎ニ (錢)	書状 書留手數料 (錢)	新聞 三十匁〇一八ニ過キサル一箇毎ニ 即チ四オンスニ過キサル壹箇毎ニ (錢)	印刷物 一箇ノ重量 (オンス)	印刷物 一箇ノ重…毎ニ又ハ…分數毎ニ (錢)
…ソウォール(ニウグラナダ) …トラリヤ(ニウサオスウェ…スヲ除キ桑港ヲ經テ) …ダ …リカ …コー …イランド(桑港ヲ經テ) ヘーチ ジャメーカ ニカラグワ パナマ(ニウグラナダ) ポルトリコ サンドミンゴ(ドミニカン共和國) 西印度(丁抹ノ)	※十	二十五	四	二	四
…ダリヤ …ルス …リツクアイルス …ーム …ーアイランド …アイランド …ランド …及アイルランド …リー …ランド …ランド …亞 ロキセンボルク マデリヤ マルタ ノールウェー ローマニア 葡萄牙 魯西亞 サルウェア 西班牙 西班牙ノ所有地(亞弗利加ノ北海岸) 西班牙諸郵便局(モロッコノ西海岸) 瑞典 瑞西 土耳其	十	二十五	四	二	四
…ス	※八		四	二	四
…ズ(ブリチシホンヂラス) …ローウプ …ー(ブリチシ、フレンチ、ダッチ) ニウグラナダ(アスピンウオル及ヒパナマヲ除ク) ウェチジラ(英郵船ニテシントトウマスヲ經テ)	※十八	二十五	六	四	十四
…ヤ 白露	※二十二	二十五	六	四	十四
…ル ｜	二十	二十五	七	二	六
…シ コロンビヤ …スイドワルドアイランド カナダ	八	二十五	六	二	四
…ドル(パナマヲ經テ閉囊ニテ)	※二十五		四	四	八
(コローンヲ經テ英郵船ニテ)	二十二	二十五	六	四	十四
…マヲ	※十五		四	二	四
…ルタル	十三	二十五	六	二	六
…ンキングドム ｜	十一		六	四	八
…コ	※十五		七	二	六
…ウンドランド	十一	二十五	四	二	四
…ース ウェールス	十七	二十五	四	四	八
…ーランド ｜	十七	二十五	四	四	八
…ードル	※十五		四	二	四
…ウィツチアイランド(ハワイアンキングドムヲ見ヨ)					
…加合衆國 …ラ(亞米利加合衆國ヨリ直航船ニテ)	五	十	二	二	二
	五	十五	二	二	二
	※十五		七	二	六

ウォール(ニウグラナダ)
ラリヤ(ニウサオスウェ ナ除キ桑港ヲ經テ)
カ
ー
ランド(桑港ヲ經テ)
リヤ
ス
ツクアイルス
ム
アイヲンド
イランド
ンド
アイルランド
ンド

	即チ十五[illegible]毎ニ又ハ其分数毎ニ	手數料	即チ四オンスヲ過キサル壹箇毎ニ	重量	分數毎ニ
	錢	錢	錢	オンス	錢
ヘーチ、ジャメーカ、ニカラグリ、パナマ(ニウグラナダ)、ポルトリコ、サンドミンゴ(ドミニカン共和國)、西印度(丁抹ノ)	※十	二十五	四	二	四
ロキセンボルク、マデリヤ、マルタ、ノールウェー、葡萄牙、ローマニア、魯西亜、サルウェア、西班牙、西班牙ノ所有地(亜弗利加ノ北海岸)、西班牙諸郵便局(モロッコノ西海岸)、瑞典、瑞西、土耳其	十	二十五	四	二	四
	※八		四	二	四
(ブリチシホンヂラス)、ーウプ、(ブリチシ、フレンチ、ツチ)、ニウグラナダ(アスピンウォル及ヒパナマヲ除ク)、ウェチシラ(英郵船ニテシントトウマスヲ經テ)	※十八	二十五	六	四	十四
白露	※二十二	二十五	六	四	十四
†	二十	二十五	七	二	六
コロンビヤ、イドワルドアイランド、カナダ	八	二十五	六	二	四
ル(パナマヲ經テ閉嚢ニテ)	※二十五		四	四	八
(コローンヲ經テ英郵船ニテ)	二十二	二十五	六	四	十四
フ	※十五		四	二	四
タル	十三	二十五	六	二	六
キングドム †	十一		六	四	八
	※十五		七	二	六
ドランド	十一	二十五	四	二	四
ウェールス	十七	二十五	四	四	八
ンド †	十七	二十五	四	四	八
ドル	※十五		四	二	四
ツチアイランド(ハワイアンキングドムヲ見ヨ)					
合衆國	五	十	二	二	二
(亜米利加合衆國ヨリ直航船ニテ)	五	十五	二	二	二
ニ記載セザル)	※十五		七	二	六
	※十八	二十五	六	四	十四

著船ノ港迄ニ限リ郵便税ヲ前拂シ得ヘキヲ示ス
新聞紙其他ノ印刷物ニ限リ届先ノ國ニテ定ムル郵便税ニ依リ受取人ヘ届濟ノ上ニテ拂フ

明治九年四月

表

十八百七十五年第四月二十六日及ヒ一千八百七十六年第二月八日同國トノ
國ノ名稱及ヒ其稅額等ヲ表示ス但シ此表ハ一千八百七十六年第四月一日ヨ

印刷物 一箇ノ重量（オンス）	印刷物 一箇ノ重量毎ニ又ハ其分數毎ニ（錢）	商品ノ見本 一箇ノ重量（オンス）	商品ノ見本 一箇ノ重量毎ニ又ハ其分數毎ニ（錢）	附註
二	四			アスピンウォル、パナマ、ヂヤメーカ及ハヴァナ（キユバ）迄但ハヴァナ」ヘハ「シントトウマス」ヲ經テノ書留信書ハ毎十五グラム若シクハ其分數毎ニ十八錢ノ郵便稅ヲ拂フヘシ書留手數料ハ上ニ記載ノ通リタルヘシ
二	四	二	四	商品見本ノ最大重量ハ二百五十グラム即チ八オンス四分ノ三トス其他ノ品物ハ書狀ヲ除ク一千グラム即チ二ポンド三オンスト定ム
二	四			
四	十四	四	十四	
四	十四	四	十四	
二	六			新聞ハ一オンスニ付四錢二オンス五錢三オンス六錢四オンス七錢
二	四	八	十八	新聞ハ一オンスニ付三錢二オンス四錢三オンス五錢四オンス六錢其他ノ印刷物ハ一オンス三錢見本類ノ重量ハ八オンス迄ヲ限トス
四	八			印刷物一オンスニ過キサルモノハ四錢二オンス六錢四オンス八錢右印刷物ト新聞紙ハインコードルニテ配達ノ上別ニ其配達稅ヲ受取人ヨリ拂フベシ
四	十四	四	十四	
二	四			（印刷物ノ重量ハ二ポンドヲ限トス）
二	六	二	六	
四	八			新聞紙ハ一オンスニ付三錢二オンス四錢三オンス五錢四オンス六錢
二	六			新聞紙ハ一オンスニ付四錢二オンス五錢三オンス六錢四オンス七錢其他ノ印刷物ハ一オンス四錢
二	四	二	四	印刷物及ヒ商品見本類ハニウハウンドランド國ノ内國定稅ニ隨ヒ配達ノ上其受取人ヨリ拂フベシ
四	八	四	八	
四	八			
二	四			
二	二	二	二	
二	二	二	二	
二	六			新聞紙ハ一オンスニ付四錢二オンス五錢三オンス六錢四オンス七錢
四	十四	四	十四	

重量（オンス）	毎ニ又ハ其分數毎ニ（錢）	重量（オンス）	毎ニ又ハ其分數毎ニ（錢）	附註
二	四			アスピンウォル、パナマ、ヂヤメーカ及ハヴァナ（キユバ）迄但ハヴァナ」ヘハ「シン」ノ書留信書ハ毎十五グラム若シクハ其分數毎ニ十八錢ノ郵便税ヲ拂フヘシ書留手數料ハ上ニ記載ノ通リタルヘシ
二	四	二	四	商品見本ノ最大重量ハ二百五十グラム即チ八オンス四分ノ三トス其他ノ品物ハ書狀ヲ除ク一千グラム即チ二ポンド三オンスト定ム
二	四			
四	十四	四	十四	
四	十四	四	十四	
二	六			新聞ハ一オンスニ付四錢二オンス五錢三オンス六錢四オンス七錢
二	四	八	十八	新聞ハ一オンスニ付三錢二オンス四錢三オンス五錢四オンス六錢其他ノ印刷物ハ一オンス三錢見本類ノ重量ハ八オンス迄ヲ限トス
四	八			印刷物一オンスニ過キサルモノハ四錢二オンス六錢四オンス八錢右印刷物ト新聞紙ハインコードルニテ配達ノ上別ニ其配達税ヲ受取人ヨリ拂フベシ
四	十四	四	十四	
二	四			（印刷物ノ重量ハ二ポンドヲ限トス）
二	六	二	六	
四	八			新聞紙ハ一オンスニ付三錢二オンス四錢三オンス五錢四オンス六錢
二	六			新聞紙ハ一オンスニ付四錢二オンス五錢三オンス六錢四オンス七錢其他ノ印刷物ハ一オンス四錢
二	四	二	四	印刷物及ヒ商品見本類ハニウハウンドランド國ノ內國定税ニ隨ヒ配達ノ上其受取人ヨリ拂フベシ
四	八	四	八	
四	八			
二	四			
二	二	二	二	
二	二	二	二	
二	六			新聞紙ハ一オンスニ付四錢二オンス五錢三オンス六錢四オンス七錢
四	十四	四	十四	（物價公報及商用ノ引札ハ新聞遞送税ト同斷）

人ニ届濟ノ上ニテ拂フベキヲ示ス

第四拾八號

一新律綱領改定律例中職制律ヲ廢ス

但私借官物律例ハ改メテ賊盜律監守自盜ノ部ニ入ル

一新律綱領改定律例中官吏ノ公罪ニ係ル者ヲ廢ス 公罪贖例圖、公罪罰俸例圖、官吏犯公罪、同僚犯公罪、公事失錯、失出入人罪、及ヒ改定律例第百五十四條等ノ類

一自今官吏職務上ノ過失ハ有心故造私罪ニ入ル者ヲ除クノ外其本屬長官ニ任シテ懲戒處分セシム

右布告候事

明治九年四月十四日

太政大臣三條實美

第四拾八號

一　新律綱領改定律例中職制律ヲ除ス

但私借官物律ハ改メテ賊盗律監守自盗ノ部ニ入ル

一　新律綱領改定律例中官吏ノ公罪ニ係ル者ヲ除ス（公罪例圖官吏公罪 公罪體例圖 [illegible]）

一　自今官吏職務上ノ過失ハ有心故造私罪ニ入ル者ヲ除クノ外其本屬長官ニ任シテ懲戒處分セシム（公罪ハ改正律例第百五十四條以下 [illegible] 失出入ハ [illegible]）

右布告候事

明治九年四月十四日　　太政大臣三條實美

第四拾九號

諸坑業稼ノ者身代限リ處分ヲ受ケ候節ハ右處分相濟候迄稼業不相成候條此旨布告候事

明治九年四月十五日　　太政大臣三條實美

第五拾號

明治八年五月第九拾五號布告新舊公債證書發行條例第二條第二節第四條第一節第六條第十二節左ノ通改正增補候條此旨布告候事

明治九年四月十七日

太政大臣三條實美

新舊公債證書發行條例

第二條

第二節　「明治二十九年迄每年」ノ下ニ「六月一日ヨリ十五日迄」ノ十字ヲ加フ

第四條

第五拾貳號

明治九年四月十五日ヨリ清國上海ニ於テ我郵便局開業候條此旨布告候事

明治九年四月十八日

太政大臣三條實美

第五拾三號

足柄縣始左ノ通廢合幷管轄替被　仰付候條此旨布告候事

明治九年四月十八日　太政大臣三條實美

足柄縣ヲ廢シ伊豆國ハ靜岡縣ヘ相模國ハ神奈川縣ヘ合併

奈良縣ヲ廢シ堺縣ヘ合併

度會縣ヲ廢シ三重縣ヘ合併

磐井縣ヲ廢シ陸前國ハ宮城縣ヘ陸中國ハ岩手縣ヘ合併宮城縣管轄磐城國ヲ磐前縣ヘ合併

新川縣ヲ廢シ石川縣ヘ合併

相川縣ヲ廢シ新潟縣ヘ合併
北條縣ヲ廢シ岡山縣ヘ合併同縣管轄備後國ヲ廣島縣ヘ合併
濱田縣ヲ廢シ島根縣ヘ合併
小倉縣ヲ廢シ福岡縣ヘ合併
佐賀縣ヲ廢シ三潴縣ヘ合併

第五拾四號

社寺學校病院等ヘ寄附候土地建物其他物品等別段之契約無之分ハ寄附主ニ於テ其所有ヲ離シタルモノトシ一般ノ讓渡ヲ以テ處分候條此旨布告候事

明治九年四月十八日

太政大臣三條實美

第五拾五號

新律綱領得遺失物律左ノ通改正シ改定律例第二百八十二條第二百八十三條第二百八十四條第二百八十五條第二百八十六條ヲ删除候條此旨布告候事

明治九年四月十九日　太政大臣三條實美

凡遺失ノ物ヲ得隱匿シテ官ニ送ラス及ヒ主ニ還サヽル者ハ官私ヲ分タス竊盜ニ準シテ論シ一等ヲ減シ並ニ物ヲ追シテ官私ニ還給シ主ナキハ官ニ入ル

若シ官私地内ニ於テ埋藏ノ物ヲ掘得隱シテ官ニ送ラサル者罪亦同シ

第五拾六號

遺失物取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

明治九年四月十九日　　太政大臣三條實美

遺失物取扱規則

第一條　凡遺失物ト稱スルハ自ラ其遺失スルヿヲ覺ラス及ヒ其所在ノ明カナラサルモノヲ云フ故ニ若シ其物ヲ得ルニ臨テ物主其場ニ就テ其主タルヿヲ証明スルニ於テハ直ニ之ヲ返還シ遺失物ヲ以テ論スルヿヲ得ス

第二條　凡遺失ノ物ヲ得レハ五日內ニ其主ニ還シ其主分明ナラサ

レハ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ榜示シ壹年内其主ナキ時ハ之ヲ得者ニ給ス

第三條　凡遺失者ハ其遺失スル物品ノ模様員數幷ニ遺失ノ日時場所等ヲ可成丈ケ詳細ニ記載シ速カニ官ニ届出ヘシ但得者ヨリ其返還ヲ得ル時モ亦更ニ其旨ヲ届出ヘシ

第四條　凡遺失ノ物ヲ得レハ之ヲ其主ニ還スト雖𪜈其費用ヲ償ハシムルヿヲ得且得者ニ報勞ノタメ其物價百分ノ五ヨリ少カラス貳拾ヨリ多カラサル金圓ヲ給スヘシ若シ物主得者ト其價格ヲ爭フ時ハ官之ヲ評價人ニ托シテ其價ヲ定ム

第五條　凡遺失物ヲ得ルニ物品盜贓ニ係ルモノハ直ニ官ニ送ルヘシ官之ヲ其主ニ還シ止タ其費用ノミヲ償ハシム

第六條　凡官私ノ地内ニ於テ埋藏ノ物ヲ堀得ル者ハ並ニ官ニ送リ地主ト中分セシム但其主分明ナルモノ及ヒ盜贓ニ係ルモノハ此限ニ在ラス

第七條　凡遺失ノ物ヲ得ルニ若シ其物耐久シ難クシテ其主分明ナラサル時ハ迅速ニ之ヲ官ニ送ルヘシ官之ヲ公賣シ其代價ヲ領置シ榜示シテ處分スルヿ第二條ノ如シ

第八條　凡家畜ノ類他所ニ逸走スルモノハ之ヲ遺失物ト稱スルヲ得スト雖𪜈其主ヨリ之ヲ官ニ報シ及ヒ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給與スルヿ第三條第四條ニ同シ若シ他人ノ財産ヲ毀損スル時ハ律ニ照シテ處分ス

第九條　凡逸走スル畜類ヲ得タル者其主分明ナラサレハ之ヲ官ニ

送ルヘシ若シ八日內其主ナケレハ官之ヲ公賣シテ得者ニ其費用ヲ償ヒ仍ホ代金ノ剰餘アルモノハ之ヲ官ニ領置シ榜示シテ處分スルヿ第二條ノ如シ

第十條　凡遺失物及ヒ逸走畜類ノ官ニ係ルモノハ官ヨリ得者ニ其費用ト報勞金ヲ給スルヿ私物ニ異ナルヿナシ

第十一條　凡警察官吏タル者ハ所部ノ內外ヲ問ハス遺失物ヲ得レハ速ニ之ヲ官ニ送リ全ク其主ニ還付シ其主ナケレハ之ヲ官ニ沒ス

第十二條　凡一切應禁ノ物ヲ得レハ遺失及ヒ埋藏ヲ論セス並ニ官ニ沒ス

第十三條　凡公私債証書地劵諸鑑札等ノ類ハ遺失物ヲ以テ論スル

ヲ得スト雖モ物主ハ得者ニ其費用ヲ償フヘシ

第十四條　凡遺失物及ヒ逸走畜類ヲ得若クハ埋藏物ヲ堀得テ官私ニ全ク送還セス或ハ物主タルヿヲ証明スルニ冒認シテ返還セサル者ハ並ニ律ニ照シテ處分ス

[illegible]ハ皆ノ既ニ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

第五拾七號

銀行又ハ爲替方又ハ兩替屋又ハ官廳ニ於テ傭入候鑑定人等金銀銅貨紙幣ヲ鑑定ノ節贋造品取扱規則左ノ通相定候條此旨布告候事

明治九年四月十九日　　　太政大臣三條實美

贋造金銀銅貨紙幣等取扱規則

第一條　新金銀銅貨紙幣等贋造品ハ詳ニ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ尋ヲ其面前ニ於テ斷截シ速ニ其最寄警察出張所或ハ屯所或ハ區戸長ニ差出シ其顚末ヲ申立ツヘシ若シ官廳ニ關スルトキハ該廳ヨリ警察官署ニ通知スヘシ

但持主立會ハサル時ハ必ス代理人ヲ出サシムヘシ遠隔ノ地ヨリ遞送シ來レル者ハ立會人ヲ取リテ之ヲ斷截シ速ニ遞送主ヘ報告スヘシ

第二條　鑑定ヲ誤リ正貨紙幣ヲ斷截シタル時ハ改人ヨリ持主ヘ其斷截シタル正貨紙幣ヲ其同等ノ品ト引換相渡シ其斷截シタル紙幣ハ事由ヲ詳記シテ管轄廳ヘ引換ヲ乞ヘシ

第三條　若シ正贋定メ難キモノ有之節ハ其原由及持主ノ宿所姓名ヲ分明ニ記載シ持主ノ面前ニ於テ其品ヲ封シ持主ヲシテ之ニ封印セシメ鑑定者ヨリ管轄廳ヘ差出スヘシ然ル時ハ該廳ニ於テ詳細吟味ノ上全ク正品ニシテ其製充分ナラス通用ノ際人民ノ疑ヲ生スヘキモノハ直ニ持主ヘ引換渡スヘシ其贋造品ハ第一條ニ依ル

第四條　古金銀貨幣贋造品ハ持主又ハ代理人ノ面前ニ於テ斷截シ直ニ其持主又ハ代理人ヘ還付スヘシ

第五條　贋造ヲ知ルト雖モ斷截セスシテ持主ニ還付シ又ハ申立ヲ等閑ニスル者等ハ相當ノ處罰ヲ爲スヘシ

第五拾八號

今般奥羽地方

御巡幸被　仰出候條此旨布告候事

但御發途時日ノ儀ハ追テ御沙汰可有之事

明治九年四月二十四日　太政大臣三條實美

第五拾九號

明治八年十月第百五拾號布告烟草稅則第一則幷ニ第三則ヘ左ノ通追加候條此旨布告候事

明治九年四月廿六日　太政大臣三條實美

烟草稅則

第一則　烟草營業稅

第十條　營業鑑札ヲ受タル烟草商人ヘハ出賣ノ爲メ願ニ任セ出賣鑑札其管廳ヨリ相渡候條出賣ノ節ハ必ス相携ヘ可申右鑑札料ハ一枚ニ付金拾錢ツヽ相納ムヘシ尤右營業商人一名一枚ニ不限何

枚ニテモ可相渡事

但遺失其外改名代換轉居ノ節ハ鑑札引換相渡シ候條手數料トシテ更ニ金拾錢相納ムヘシ

第三則　賞罰例

第十三條　出賣鑑札ノ貸借ハ不相成借受幷貸渡シタル者ハ其鑑札取上枚數ニ應シ鑑札料十倍ノ科料申付ヘシ右鑑札ヲ所持セスシテ出賣ヲナス者ハ鑑札料二十倍ノ科料可申付事

第六拾號

明治八年六月第百八號布告貨幣條例品位量目表ノ內銅貨中ノ直徑記載誤謬有之ニ付左ノ通正誤候條此旨布告候事

明治九年四月廿八日

太政大臣三條實美

貨幣條例品位量目表ノ內

貨幣條例書冊第十四葉裏

一錢銅貨			
明治四年制定發行セス 表 裏		明治六年八月圖畫寸法改正發行 表 裏	
以百枚換一圓			
徑尺曲	量目	徑尺曲	量目
九分	日本 一匁八分九厘七毛五 英吉利 百十七ゲレイン	九分二釐	前ト同シ

同上第十五葉表

半錢銅貨			
明治四年制定發行セス 表 裏		明治六年八月圖畫寸法改正發行 表 裏	
以二百枚換一圓			
徑尺曲	量目	徑尺曲	量目
七分七釐	日本 九分四八毛七 英吉利 五十五レイン	七分二釐	前ト同シ

枚ニテモ可相渡事

但遺失其外改名代換轉居ノ節ハ鑑札引換相渡シ候條手數料トシテ更ニ金拾錢相納ムヘシ

第三則　賞罰例

第十三條　出賣鑑札ノ貸借ハ不相成借受幷貸渡シタル者ハ其鑑札取上枚數ニ應シ鑑札料十倍ノ科料申付ヘシ右鑑札ヲ所持セスシテ出賣ヲナス者ハ鑑札料二十倍ノ科料可申付事

第六拾號

明治八年六月第百八號布告貨幣條例品位量目表ノ内銅貨中ノ直徑記載誤謬有之ニ付左ノ通正誤候條此旨布告候事

明治九年四月廿八日

太政大臣三條實美

貨幣條例品位量目表ノ内

貨幣條例書冊第十四葉裏

銅貨　一錢

明治四年制定發行セス		明治六年八月圖畫寸法改正發行	
表	裏	表	裏

以百枚換一圓

徑曲尺	量目	徑曲尺	量目
九分	日本 一匁八分九厘七毛五 英吉利 百十一ゲレイン」	九分二釐	前ト同シ

同上第十五葉表

銅貨　半錢

明治四年制定發行セス		明治六年八月圖畫寸法改正發行	
表	裏	表	裏

以二百枚換一圓

徑曲尺	量目	徑曲尺	量目
七分七釐	日本 九分四厘八毛七五 英吉利 五十五「ゲレイン」	七分二釐	前ト同シ

貨幣條例品位量目表ノ内

貨幣條例書冊第十四葉表

貨幣 一錢銅	
表 裏 明治六年八月圖籍 十五改正發行	表 裏 明治四年制定發行
一錢百枚以圓	

量目	徑尺曲	量目	徑尺曲
前ヽ同ヽ	九分二釐	英吉利 日本	九分

同上第十五葉表

貨幣 半錢銅	
表 裏 明治六年八月圖籍 十五改正發行	表 裏 明治四年制定發行
一錢二百枚以圓	

量目	徑尺曲	量目	徑尺曲
前ヽ同	七分二	英吉利 日本	七分七

第六拾壹號

本年三月第三拾號布告外國船乘込規則第三條中手數料金貳拾五錢ヲ金拾錢ト改正候條此旨布告候事

明治九年四月二十九日

太政大臣三條實美

第六拾貳號

今般足柄佐賀兩裁判所ヲ廢シ愛知三潴兩縣ヘ裁判所被置候條此旨布告候事

明治九年五月三日

太政大臣三條實美

第六拾三號

明治七年七月第七十八號同年十一月第百貳拾七號同八年五月第七拾四號布告及同七年七月第九拾壹號同年十一月第百五拾八號達ヲ廢シ証人幷無罪解放ノ者等ノ旅費支給方ノ儀今般更ニ左ノ通相定當五月十六日ヨリ施行候條此旨布告候事

明治九年五月四日　　太政大臣三條實美

一罪囚ノ證人タルヘキト思量シ裁判官ニ於テ呼出ス者探索上ニテ捕ニ就キ及裁判官ノ呼出ヲ受テ無罪ニ歸スル者人違又ハ官吏ノ其人名ヲ誤寫スル等ニテ呼出シタル者（各官廳ヨリ呼出ス者モ亦同シ）有罪ト認